

宮古島における環境・エネルギー教育**The environment and energy education in Miyako island****宮古高校¹、儀間朝宜¹****Miyako H.S.¹、Tomonari Gima¹****E-mail: gimatmnr@open.ed.jp**

宮古島は、北緯 24～25 度、東経 125～126 度に位置しており、周辺には池間島、来間島、伊良部島、下地島、大神島の 5 つの島がある。宮古島市の面積は 204 km²、人口約 55000 人である（宮古島市 HP より）。

クチャとよばれる泥岩層の上に琉球石灰岩が堆積しており、島は全体的に平坦で、所々に低い丘陵が南北に走る（図 1）。亜熱帯性海洋性気候に属しており、平均気温は約 23℃で年間を通じて暖かい。美しいサンゴ礁の海や汽水域に広がるマングローブなどには多様でユニークな生き物たちが生息する。また、宮古島にはミヤコカナヘビやミヤコサワガニといった固有種も多く、琉球列島の成り立ちを考えるうえで学術的にも重要な生き物だといわれている。



図 1．宮古島の様子

伊良部島から宮古島を望む。青いサンゴの海の奥に平坦な宮古島が見える。

沖縄県立宮古高校学校は、昨年 12 月に創立 90 周年を迎えた伝統校である。生徒数は 786 名であり、理数科と普通科が設置されている。校訓は「知性の啓培」「徳性の涵養」「体力の錬磨」である。

本校では、環境教育として 1 年生を対象に「野外実習」を実施している。今年度は島尻マングローブ、東平安名崎海岸植生、袖山浄水場、地下ダムを見学した。事前学習では各実習地について生徒自身が調べ、他の生徒に教え合う取り組みをおこなった。また、事後学習として、野外実習新聞を作成させた。

エネルギー教育は、2 年生理数科を対象にエネルギーに関する講話を実施した。外部の研究者や宮古島市職員を招き、世界と地域（宮古島）のエネルギーに関する現状について実際の研究データを交えて学習した。その際、グローバルな視点でエネルギー問題について考えた。

環境・エネルギー教育における課題としては、行事的な教育となってしまう点である。普段の授業においても、世界や地域の環境・エネルギーを学ぶことが望ましいと考える。また、理数科 2 年の教育課程にある課題研究の研究テーマで扱うことで、さらにこれらの知識を深めることができるであろう。

小さな島の宮古島で、健全な経済活動おこない、生活に必要なエネルギーを作り出すことは、持続可能な社会を実現するうえで重要な課題といえる。そのためにも、将来の宮古島を担う高校生に対し、環境・エネルギー教育を今後さらに充実させる必要があると考える。